

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(シンガポール)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2017年12月10日~23日の日程で、シンガポールにおける2度目となるカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。シンガポールでの連携大学は南洋理工大学で、本学工学研究科2名、外国語学部フランス語専攻、同ペルシャ語専攻各1名、南洋理工大学から工学部2名、人文学部2名の合計8名が参加しました。南洋理工大学にて実施した2日間の事前研修では、日系製造業、受け入れ企業である千代田シンガポール(CSL)(千代田化工建設)、コミュニケーション等について学び、更にCIS取り組み課題として設定された「コミュニケーションの課題と対策」に対する考え方をチームで協議するなどの活動に取り組みました。その後、5日間の行程でCSLにて企業実習に参加しました。実習ではプロジェクト部、エンジニアリング部、調達部、建設部他、各部署からの業務に関する詳しい説明と、業務における各部署とのコミュニケーション方法、その課題や対応などについて丁寧な講義やインタビューが行われました。学生にとってEPCビジネス(Engineering, Procurement, Construction)について学ぶのは初めての機会であり、各講義ではEPCに関して、コミュニケーションについて等、多くの質問が飛び交いました。同社のサブコントラクター訪問では、工場見学を始め、作業に従事する社員との面談も行われました。更に、ジュロン島にあるCSLの顧客プラント訪問の機会も頂戴し、巨大で複雑な化学プラン

トを間近で見学するなど、大変貴重な経験を得ました。

5日間の活動を通して、学生は、緻密で複雑なEPCビジネスにおけるコミュニケーションの重要性、そしてマルチナショナルな職場環境において取り組まれてきた様々な改善活動を学びました。学生の立場として何に着眼し、企業にどのような提案ができるのか、宿舎へ戻ってから熱心な議論が続きました。

12月22日には南洋理工大学で最終報告会が開催され、CSLからは柳原社長、増子取締役、高嶋副取締役、南洋理工大学キャリアアタッチメントオフィスからChong-Goh 副部長、Chua アシスタントマネージャー他の参加がありました。A、B両チームからは課題に対し、社内におけるミーティングスペースの改善によるコミュニケーションの向上から、東南・南アジア地域におけるフォーラムの主権による地域内でのコミュニケーションの改善など、ミクロとマクロ双方からの様々な提案がありました。シンガポールで長く経験を持つCSLへの提言を検討することは学生にとって容易ではありませんでしたが、企業からはすぐにでも取り入れたい提案もあったとのコメントもあり、困難だったからこそ達成感の大きい取り組みとなりました。

多文化が共生するシンガポールでのCIS実施は、正に将来のグローバルリーダーの育成にふさわしい環境であり、学生にとって恵まれた、学び多い活動となりました。

